

## リーディングDXスクール事業【実践事例】

松江市立義務教育学校玉湯学園

## 【取組内容①】Google Workspaceの授業活用に向けた体系表の作成・活用と実践的職員研修の実施

本校では、Windows端末でのGoogle Workspaceの活用を進めている。授業での活用を進めるためには、一部のICTに卓越した教職員の取組ではなく、全教職員の取組となるような手立てが必要と考え、教職員の目線あわせとスキルアップに重点を置いた。

## ①「ICT活用能力体系表」の活用

各学年部から担当者を選びプロジェクトチームとし、目標と事業計画を設定し共有した。

1～9年生が在籍する義務教育学校であり、発達段階も幅広いことから、各ブロックや学年でどのような力をつけていくのか、また、それに向けた重点的な取り組みを設定した体系表を作成し、それを意識して取り組んだ。実践しながら加筆・修正し、取組を可視化することで活用の見通しを持つことができた。

「ICT活用能力体系表」

## 前期ブロック(1～4年生)

## 【育みたい姿】

- 目的をもって写真を撮ったり、撮影した写真の中から伝えたい内容のものを選び、クラスで発表したりできるようになる。
- 調べたい内容をキーボード入力して検索し、集めた情報を比べ、自分なりの言葉でまとめて記録することができる。

## 【重点的な取り組み】

- 低学年は写真撮影と撮影した写真の活用を中心に行う。中学年は発表ノートやシンプルプレゼンの作成を通じて、情報の取捨選択や整理を行っていく。

## 中期ブロック(5～7年生)

## 【育みたい姿】

- 複数の情報を項目ごとに分けたり、関連付けたりすることができるようになる。
- まとめることによって分かったことを伝えて、聞き手から納得を引き出すことができるようになる。

## 【重点的な取り組み】

- Googleを活用し、クラスルーム、Googleミート、Googleジャムボード、Googleスライドなどの機能を使い、児童生徒の主体的な学習を広げていく。

## 後期ブロック(8・9年生)

## 【育みたい姿】

- 多様な手段で情報を集めたり、情報の種類によってまとめ方を工夫できるようになる。
- 新しい考えや価値を創り出し、それを提案できるようになる。

## 【重点的な取り組み】

- クラスルーム、Googleミート、Googleジャムボード、Googleスライドなどの機能を使いこなし、生徒が選択したり判断したりする機会を広げていく。
- 総合的な学習の時間だけでなく、他教科や児童生徒会での活用場面を増やしていく。
- ジャムボードを使った協調学習や、スプレッドシートを使った他者参照など、ICTを活用した協働的な学びを増やしていく。